

藤の樹工房通信

平成30年9月号

夏の風物詩・花火は、徳川家康が花火を見たのをきっかけに、将軍家をはじめ諸大名の間で花火が流行しました。その後、江戸の町民にまで広がっていき、江戸以外にも日本各地に花火は広がり、そして、先祖供養の意味合いやお祭り等で打ち上げられるようになり、現在に至ります。打ち上げられたきっかけは、送り盆の時期に、魂の鎮魂のために打ち上げられたものだといわれています。もともとは送り火として、ご先祖様をお送りするための花火でしたが、いつしか夏の観賞メインのイベントに育って来たんですね。今年もマキノサニーカーニバルでは沢山の見物客が押し寄せましたが、このような歴史を知ることで見方が変わってくるのではないのでしょうか。



9月の予定

9月の予定

<ワークショップ>

日時 9月 14日(金)
28日(金)

13:30~15:30

場所 ドリーム

内容 日頃のストレス発散!

みんなで歌いましょう!



【9月1日は防災の日】

災害はいつ襲ってくるか分かりません。家庭で備えておきたい非常用品のチェックリストなどを確認しましょう。



<パソコン教室>

日時 9月10日(月) 13:30~15:00まで

場所 藤の樹工房・作業室

※定員6名、事前予約が必要です。詳しくは職員まで…



お知らせ

職員しよくいん たいしよくの退職たいしよくについて

平成27年へいせい ねんからこけだま 苺玉ちゅうしんを中心とに取り組んで頂いたいた森本もりもとさんが、7月がつ31日にちづ付けで退職たいしよくされました。

編集後記

夏の暑さなつ あつの疲れつかが身体からだに溜まりた、少しずつ「何すこだか疲なんれた」というサインつかを出し始めるだ はじのが、8月がつ お終わりから9月がつちゅうじゆん中 旬じきくらいまでのこの時期じきなのです。こういった時期じきには抵抗ていこうりよく力が落ちおているため、普段ふだんは何なんともないところかせで風邪ひを引ながびいてしまい、長引ながびいてしまうことなもあるなので要注ようちゆうい意ざんしよです。残暑がつ かとは、8月8日りっしゅうの立がつ 秋かから9月20日かの秋分しゅうぶんの日ひまでの間あいだの暑あつささのこいを言いいます。いつもよりすこも少しだけ早はやく就寝しゅうしんしたりして、身体からだの自然治癒しぜんちゆりよく力を高たかめましょう。

本当ほんとうに身体からだが疲つかれている時ときは、眠ねむっても眠ねむってもまだ眠ねむれるというように身体からだが睡眠すいみんを欲ほっしていることがよくあります。

疲つかれる前まえに睡眠すいみん、栄養えいよう、軽かるい運動うんどうで抵抗ていこうりよく力つくを作りまつくしょう。

まず食しょくじ事はビお タお ミお ンお Bお 1お を多お く含お む食お べ物お (鰻うなぎ や豚肉ぶたにく、ニニンニク、えだまめ げんまい) を食しょくじ事とに取り入とれまとしょう。ビお タお ミお ンお Bお 1お が不ふ 足そく することつかで疲つかれやすつかくなつかったり、身からだ体からだがむかくかんだりイいライいラいしたりする原因げんいんにもなるげんいんので、残暑ざんしよの時期じきには特とくに注ちゆうい意いして下すいみんさい。睡すいみん眠みんをししつかりと撰えいようって栄たくわ養あそを蓄あそえたら、遊あそびがあそてらあそちあそよあそつと身からだ体からだを動うごかうごす(散さん歩ぽなど) こととも取いり入いれてみまいしょう。 記：北川

